

平成 15 年 10 月 1 日

細田 安治

需要創造 3

大学の研究室によれば、森林から発生するマイナスイオンは、森林が人類にとってなくてはならぬものであり、その証明としてマイナスイオンを数値化する研究を進めている。成功すれば、森林のよさが更に見直され、森林を保持するためには、森林の整備が必要であり、整備には、間伐が必要であり、成熟してこれ以上炭酸ガスを吸収できない木などを伐採して、森林が更に機能を発揮し、緑の保全、水源の保持、炭酸ガスを固定し、マイナスイオンの発生など数々の活動によって、森林のよさと、森林から必要に応じて伐採される木材のよさがに見直されることになる。このマイナスイオンの数値化は素晴らしいことで、早期の実現が待たれるところである。

最近の建材メーカーの新製品によれば、マイナスイオン発生の内装建材を開発し、森林や公園なみの発生量があり、通常のクロス仕上げの発生量 300～500 個が、5 倍から 6 倍で、1500～3000 個の発生量があるとのことである。こちらは既に数値化されており、世間一般の木材を使ってくれる消費者に PR している。森林や公園なみというなら数値化されていることであり、冒頭の研究も数値化できるはずである。早期の開発が望まれる。

★イオン 大気中に存在する電気を帯びた目に見えない微粒子である

☆マイナスイオン マイナス電気を帯びたもので森林、滝の周辺、朝日の出る所に増加、爽快感、リラクゼーションを感じる空気に多く含まれる

マイナスイオンには疲労軽減作用、ストレス緩和作用、美容、保健作用、新陳代謝促進作用、血液浄化作用などがあるといわれている。

☆プラスイオン プラスの電気を帯びたもの O A 機器に囲まれたオフィス、タバコの煙が立ち込めるところ大気が汚染されたところで増加し、身体疾患の原因となることもある。

平成 15 年 10 月 21 日

細田 安治

HMC メッセ 6

需要の創造 4

10 月 21 日、全木連、全木協連の主催による、第 38 回全国木材産業振興大会「改革・創造・挑戦の更なる継続」をテーマとして、全木連創立 50 周年記念ともなり、大阪会場で全国から関係者約 1000 人が参加、石原林野庁長官ほか来賓多数が出席して盛大に行われた。第一部では大会宣言として「木材産業の構造改革を推進し、環境・健康にやさしい産業を目指そう」などの採択、功労者の表彰、第二部ではかねてから公募していた木材産業のシンボルマークを公表、第三部では「私と木材」と題して、浜村 淳氏による講演が行われた。私自身この大会に参加、表彰も頂き感謝申し上げる次第であります。

さておきこの大会に限らず、全国的な行事に参加するたびに思うことは、このような行事を木材業者だけでは勿体といつも感じている一人である。例を挙げれば

第三部でシンボルマークの公表が行われた、審査委員長によれば全国各地から、7 歳の子供さんから、72 歳のお年寄りまで 752 点の応募があり、国籍も多種多様で、中国からの留学生の王彦龍君が大賞を受賞した。このマークは実に素晴らしく、一本の緑の木を表現したものだが、大地に確りと根を下ろした緑の葉を茂らせ、やがて成長して天を衝き、林や森が形成し、人類の生存にはなくてはならない森林を創り、太陽と雨を受けて山を守り、CO₂を固定して大地を創造し地球を守る。間伐を進めながら成熟しこの過程において二酸化炭素を吸収し、やがてこれ以上二酸化炭素を吸収できない老成樹となって伐採される。樹が木材となって、都会に住宅などの資材、部材として使われる。ここに都会に第二の森林が形成され、樹が木にとって二酸化炭素固定を継続する。住宅などの寿命がくれば取り壊され、チップなどに再生される、ここで三度目の二酸化炭素固定が継続され、寿命が来れば土に返し大地形成の重要な役割を果たしているのは木材以外には見当たらない。人類の生存のための完全循環型資源は木材をおいてほかにない。尚、伐採した後には、苗木を植えて山を守り、育てられた樹は木となり、自然の循環を繰り返すことの出来る永遠の循環型資源である。シンボルマークは正に、樹の一生を物語るものであり、永遠の循環型資源をイメージしたものではないか。例えばこのようなことを業界内の自己満足に終わらせず、一般消費消費者に広く知らしめるべきではないか。それには全国各地業界団体が中心になり、関係者がそれぞれの地域で活動すべきと提案する。

尚、運動会が各地で行われ、日本の未来を担う子供たちの逞しい活動振りを思い出したのは、運動会のフィナーレを飾る組体操は、正に緑のシンボルマークまったく同じではないか。地球の未来を守るそして担うのは森林であり木材である。同じく未来を守り担うのは子供たちである。組み体操と、一本の木は、正に目指すところは地球を担うことであり、守ることである。

平成 15 年 10 月 21 日

細田 安治

HMC メッセ 7

需要の創造 5

10 月 21 日、全木連、全木協連の主催による、第 38 回全国木材産業振興大会の、第三部では「私と木材」と題して、浜村 淳先生による講演が行われた。内容は素晴らしいもので木の良さを、先生独特のパーソナリティーで熱弁を振るったこのような素晴らしい話を業者のなかだけで終わってしまうのはいかにも惜しい話だ。

1000 人と称される講演を聴いた参加者が、それぞれ国許にかえってそれぞれの口から、本日の講演のなかでの木の良さを訴えれば、大きな輪が全国的に広がり木材需要の拡大に貢献するのではないかと常々考えているところである。

以下簡単以後紹介申し上げる。

日本人は昔から森を中心とした自然のなかで生活していた。日本の文化や習慣も森と自然との共生だ。その証拠に漢字を調べればよくわかる。漢字には実に 木偏が多い、木を用いた字が多い。

材 木材 食材 資材というのは、昔は材料といえ、木材しかなかったのではないかと
木に日は 東

親という 字をよく見ると 親は、木の上に立ち、木の上から子供を見守っている
上から、べたべた 溺愛せずに 無関心ではなく、一定の距離を置いて
木にまつわる言葉も多い、

大化の改新時代 大友の安麻呂の歌に、山に切る木は数々あれど、思い切る木は更にな
万葉集にも、木からしたたる露になりたいなど、木にまつわる言葉が多い

紀伊国屋左衛門は、みかんで儲けたといわれているが、実は材木で儲けたものだ

京都の都が 1200 年の歴史は、周囲の山から木を切り出し木の家を作った。木は息つ
いているから、生活に潤いを与え、人々の生活を守り支えた木造建築のおかげだ。

木は気持ちにゆとり、心に癒し、木は美しく、優しく人々心にささやいてくれる
朝家をでるとき、行ってらっしゃいと励ましてくれる。夕方帰ってくれば、お疲れ様と
ねぎらってくれる。

戦後、杉の子の歌がはやった。日本人は戦後丸坊主の山を、木を植えて緑を復元した。

日本人を含めて、人類には森が森林が、木材が大切だ。

マルマル坊主の禿山は、いつでも皆の笑いもの、

コレコレ杉の子、起きなさい お日様ニコニコ声かけた、日本人は植林して緑を育て、守
り地球に優しい森林を創った。森の正しい管理をすれば、切って植えれば永遠に森は続く
このように昔から木は、日本の歴史そのものだ。日本のため世界のためにもっと、木をき
り、もっと植えて、もっと手入れして、もっと木を使おう。上手に再現できなかったが以

上のようなこと、全国的に展開し 木のよさを訴え、需要の創造に努めるべしと提案する。

平成15年11月15日

細田 安治

HMC メッセ 8

需要の創造 6

住宅ローン減税の延長を

9月まで上半期の新築住宅着工戸数は、デフレ不況のなか、前期比の0.9%増と現状を維持している。このうち持ち家が4.2%増の20万戸、貸家が2.2%減23万戸、分譲は1.6%増の15万戸だが、このうちマンション4.2%減の9万戸、戸建分譲が11.4%の6万戸と大幅に伸びた。なかでも木造住宅は半期で39万戸5.7%増、木材業界に最も関係の深い在来木造が、31万戸、6%増と大健闘している。地価の低下もさることながら、住宅ローン減税期限切れ前の駆け込み需要の影響がおおきいと見るのが自然ではないか、

このような背景から、平成15年末で期限が切れる住宅ローン減税を巡り、木材業界の浮沈にかかわる問題として、是非とも延長と全木連を通して運動をしているが、なんとなく盛り上がらない。一方住宅生産団体の方は、減税の効果が大きいとして、期限切れとなれば、需要が大きく減退することは明らかなことであり 是非とも継続をと熱い運動を展開している。

ある調査によれば、が打ち切られると、新築住宅戸数は10万戸へり、お金にすれば3兆円、関係経済効果減少は5兆円とも言われており、一般景気に与える影響は甚大である。せつかく景気にいくらか上向きの傾向が見られるなか、ここで住宅ローン減税を打ち切られれば、5兆円の需要減少となりの景気後退の原因となることになる。ここは関係業界上げて一致団結、住宅ローン減税延長の実現を、大きな声での運動をすべきと提言する。

平成15年11月20日

HMCメッセ 9

需要の創造 7

第27回全国育樹祭が（社）国土緑化推進機構と愛知県が主催、全国森林連合会、社団法人全国林業改良普及協会の協賛により、10月25日、26日の2日間にわたり、皇太子殿下、妃殿下をお迎えして行われた。初日の25日には、名古屋ニューキャッスルホテルにて、式典、懇談会が開催され、両殿下は、参加者の間を回りながら、育樹祭が成功するよう親しくお言葉をかけられた。

翌26日には、メイン会場である愛知県昭和の森において、全国から林業、木材業など関係団体、緑化運動関係者、関係諸官庁、関係者など8000人が参加者、育樹祭にふさわしい雲ひとつない日本晴れのもと皇太子殿下、妃殿下の「お手入れ行事」などさまざまな行事が盛大に行われた。

式典で皇太子殿下は「この地から全国に向けて 育樹の大切さが発信され、将来にわたって緑が守られ育てられることを切に願います」とお言葉を述べられた。亀井農林水産大臣、愛知県知事などが、「森を大切に育てる心を来世紀までつなげたい」と挨拶、功労者表彰のあと、「人が緑と共生する豊かな社会を時代に引き継ぐ」と大会宣言を発表、地元少年たちによるアトラクション、オカリナ演奏、創作ダンスなどが披露された。

春の植樹祭は天皇陛下をお迎えし、木を植える、秋には皇太子殿下によるお手入れ育樹行事を行うなど一連の行事は、

皇室を精神のよりどころとする日本人の心、皇太子殿下をお迎えし、緑を植えて森を育て、国土をまもり、地球をまもり時代に引き継ぐこの精神はまさに、日本人の心そのものである。このような行事が各地で行われ、広がることを望むものである。

さらにこの運動の広がりとして、国土を守り、緑と共生する豊かな社会を次の世代に引き継ぐには、森林を維持しなくてはならぬ、維持するには、伐採が必要だ。樹が、木材になってからの、使い道についての運動も同時に、行わなければならないのではないか、森を育むと同時に、木材の使い道、即ち木材の需要拡大について、国を挙げて展開すべきである。春には天皇陛下、皇后陛下をお迎えして、まず木の苗を植える植樹祭、そして秋の育樹祭と皇室が関わる行事として、国をあげて行事である。植えて、育ててあとはどうするのだろうか、あとは民間任せではやがて困ったことになる、植えて、育てて、使い、土に返す、この一連の環境循環型リサイクル運動は、今問題となっている地球温暖化防止、二酸化炭素排出制限には、正に時期をえた運動として歓迎されているところである。植えて、育てるの次は使うことである。いまや日本の木材使用量は、不況のため97年にくらべて、20%減少している。国産材の使用率即ち自給率は18%に激減している。こんな現状では循環型リサイクルはやがて、行き詰まる、山は手入れしても、木材の使い道がなければ、放置され、山は荒廃するだけだ。衆知の事実だが、育樹祭に参列して痛感した次第である。植えて、育てて、使うことの3点セットで需要拡大に運動を展開すべしと提案する。

3年11月25日

CEOメッセ 10号

需要の創造 8

官民あげての需要開発を

10月10日AF&PA全米林産物製紙業界と全木連をはじめとする日本国内の木材関連業界との会議がAF&PAに本事務所で行われた。

1. 木材消費量9千万m³、外材比率82%、米国の供給11%、日米は重要なパートナー

2. 日米とも、違法伐採した木材は使わない

3. 貿易自由化問題での日本の立場の説明

4. 森林認証問題

5. 木材と環境評価問題

6. 天然木から化学物質放散についてなどについての発表、意見交換後自由討議が行われた

■総論

米国 たくさん使え

日本 森林維持し、国土保全、森林整備、環境循環などの保全のため国産材の使用を強調

■森林認証制度

米国 500マイルシステムとして、エネルギー節約のため 500マイル以内の伐採し使う

日本 森林認証制度「緑の循環」認証会議SGEC制度の開設による環境の保全

■化学物質の放散

米国 生産現場のみの規制、家が出来てからの規制はない

日本 シックスハウス症候群として規制

これらの討議が約3時間にわたり行われ立場の違いが浮き彫りになった。

いまアメリカは

官民あげて、欧州材に主導権をとられ、木材の売り込みをかけてきている。米国内の住宅建築は好調で今すぐにはこまっいてないが、将来をにらんでの売り込みである。夜はホテルオークラで、国土交通省建築指導課長、農水省木材課長などを招待しPRに努めている。このような会に出るたびに思うことは、日本ももっと、官が前面にでて諸外国に向かって売り込みをかけるべきと痛感する次第だ。

ブラジル物語 - 1

ブラジルの規模

国土面積

ここでイペの故郷アマゾンの、そしてブラジルについてブラジル物語としてご紹介する。ブラジルの面積は、8512千平方キロ、人口1億5千万人、GDP国民一人当たり、7567リアル、ドル換算2850ドル、1ドル110円換算で、日本円¥314千円、一月あたり¥26千だ。大雑把に日本の10分の1と考えてよいと思う。

主要産業

主として林業、農業、鉱業、酪農畜産、そして食品、コーヒーなどだが、コーヒーは全体の構成比で、4.4%とかなりシェアを占めている重要な産業の一つだ。主要産業で働く労働者の賃金は低く、日本円で一万円以下と聞く、文盲率も高く30%を占めている。

経済

年率12%のインフレと貸出金利61%に悩まされているが、ルラ大統領は国民から高い支持を受けている。高支持率の秘密は①飢餓をゼロに②最低賃金に引き上げ③緊縮財政④財政黒字目標厳守、IMFとの約束⑤海外からの評価が高く、事業家の資金調達を容易にしている。

世界の宝庫としての、木材資源は豊富でFAO資料によれば、蓄積量1042億立方世界の約27%を占めている。日本は35億立方メートル（95年林野庁調査）の蓄積量でブラジルは日本の30倍の蓄積量がある

平成15年11月22日

ブラジル物語 - 2

ブラジルの国情についてもう少し詳しく述べる。世界の海岸線の2%、陸地面積1.7%、淡水の蓄積は1.5%と膨大な国土を有し、**国土の面では超大国である。**

人々の姿でみれば

人口・1億8000万人、15~64歳67%、**日系人130万人、働き盛りが多い国、**
社会格差・10%最富裕層が所得の48%、全人口の22%が貧困ライン以下、**富の偏重だ**
宗教・世界最大のカトリック教国で全人口の8割を占めている

経済・GDP世界第10位 一人当たりの2850ドル(2001年)世界94位

輸出・世界最大の鉄鋼輸出国

農業・大豆世界生産の第2位、オレンジ、砂糖、コーヒー、牛肉、バナナなど大生産国

自動車・販売台数 112.6万台(94~02年)中国、韓国と同水準

日本企業の数・総数では92年322から02年280に減少、

一次産品農水、繊維、金属、産業機械**減少、自動車、精密機器、**などが増えている

経済成長・上段1994年、下段2002年 単位 10億ドル

驚異的なインフレ退治、物価安定したが、成長停滞外貨依存、対外債務が増大

インフレ率	経済成長率	失業率	経常収支	対外債務
916.5%	5.9%	14.3%	-1.8	148.3
12.5%	1.5%	19.0%	-7.7	227.7

投資環境・ **投資には、一呼吸必要**

①為替レートは安定、競争力あり

②最低賃金80ドル、通常この3倍で240ドル

③解雇容易でない

④金融市場タイト

⑤外資に優遇措置無し

⑥ビザ発給、外国送金規則時として、不透明かつ不規則

⑦共通関税12%、なかには保護主義的高関税あり、原産地規則域内付加価値率60%以上

⑧インフラ不十分。港湾手続き問題あり、「ブラジルコスト」との指摘されている

重要なことは、注文しても簡単に入荷できる環境にないことは、認識すべきだ

(ジェットロアジア経済研究所 浜口伸明氏 資料より引用)

ブラジル物語—3

究極の耐久性木材をもとめて

細田木材工業では、安全でいつまでも美しい究極の耐久材を求めて、森林の宝庫 ブラジルのアマゾンから、木材の王様 イペ を持ってきた。何故イペは、木材の王様ですか？とよく聞かれる。

イペには次のような、特徴がある。

1. 耐久性

腐りにくく、外部使用でも、薬品処理無しで、20年以上の耐久性を有し、欧米では、貴重なエクステリア材として数多くの実績がある。

2. 耐摩耗性

他の材に比べて抜群で、外部の、土足歩行通路使用にも十分耐えられる。

2. 安全な木材

薬品処理無しで天然の木材の良さを生かした安全な木材だ。

3. 貴重な高級材

ブラジルウォールナットといわれる貴重な高級材で、外部エクステリアのみならず、建築内装のインテリアにも多く使われている高級材である。

4. 加工性

気乾比重 1.12 と重く、重厚な材で、しかも硬いが、鋸切れ、鉋切れがよく、仕上がりは抜群の美しさだ。